2020.12.05

ホームページのこと（2）

小嶋祥三

これまで、結構大量の論文を読んできたので、追われるような気分になっていた。特にASD の論文を読みだしてからは、その傾向は強い。後期高齢者になって 2 年。そろそろゆっくりしてもいいだろう。結局、次のようにすることにした。

『今月の認知神経科学』は、これまでのような網羅的に読むことはせず、個人的に面白いと思う論文を読むことにした。どのような研究が面白いのか。やはり、ある特定の脳領域に限定して機能を検討するよりも、脳領域間の関係で機能を捉えるアプローチの方を好む傾向がある。Predictive coding はそのようなアプローチをとっているし、認知制御機能と感覚領野の関係などは興味深かった。ただ、新しい論文がこれまでの知見の補強にとどまり、新しい見方を提示できるのか、心配である。しかし、これは難しい問題だ。光遺伝学的手法のような、新しい技術なしに、新しい脳の見方は成立しないのだろうか。多分もう、実験に関わる機会はないだろうから、先を見ず、自分の興味に従って、のんびりと振り返るのでもいいのかなと思う。

『発達障がいの論文を読む』も、あまり焦点を絞らず、広く論文を紹介してきた。これまで発達障がいの論文を読む機会は少なかったので、どのようなテーマ、どのような論文があるのか知りたかった。これからは、『ASD の論文を読む－幼児の研究を中心に』と題して、ASD の早期発見に焦点を当てて読んで行こうと思う。結局、わたしの興味はそこにあったようだ。霊長類研究所で行ったチンパンジーの発達研究、それに関係する発達関係の大型科学研究費に関係したことが、下地になったように思う。はっきり言って、わたしのような部外者が言いたい放題言う側面もあるので、専門の方には噴飯ものかもしれないが、ご容赦願いたい。